


- 
- 4 それぞれ互いに友を警戒せよ。どの兄弟も信用してはならない。
どの兄弟も人を出し抜き、どの友も中傷して歩き回るからだ。
- 5 彼らはそれぞれ友をだまして、真実を語らない。偽りを語ることを自分の舌
に教え、疲れきるまで悪事を働く。
- 6 あなたは欺きのただ中に住み、欺きの中で わたしを知ることを拒む。
——【主】のことば——。」
- 7 それゆえ、万軍の【主】はこう言われる。「見よ、わたしは彼らを精錬して試す。
いったい、娘であるわたしの民に対して ほかに何ができるだろうか」
- 8 彼らの舌はとがった矢。人を欺くことを言う。口先では友に向かって平和を
語るが、心の中では待ち伏せを企む。
- 9 これらについて、わたしが彼らを罰しないだろうか。——【主】のことば——
このような国に、わたしが復讐しないだろうか。

* 特に断りがない限り、新改訳2017より使用



希望の光バプテスト教会


2020年8月16日(日)

礼拝メッセージノート

「 預言者の涙と神のさばき 」

| エレミヤ書講解-23 エレミヤ書8:18~9:9 他 小野寺 望 牧師

【 エレミヤ書 8-9章 】

- 
- 18 私の悲しみは癒されず、
19 私の心は弱り果てている。
20 見よ。遠い地から 娘である私の民の叫び声がする。
「【主】はシオンにおられないのか。シオンの王は、そこにおられないのか。」
「なぜ、彼らは自分たちが刻んだ像、異国の空しいものによって、
わたしの怒りを引き起こしたのか。」
- 21 「刈入れ時は過ぎ、夏も終わった。しかし、私たちは救われない。」
娘である私の民の傷のために、私は傷ついた。うなだれる中、恐怖が私を
とらえる。
- 22 乳香はギルアデにないのか。医者はそのにないのか。
なぜ、娘である私の民の傷は癒えなかったのか。
- 1 ああ、私の頭が水であり、私の目が涙の泉であったなら、娘である私の民の
殺された者たちのために昼も夜も、泣こうものを。
- 2 ああ、私が荒野に旅人の宿を持っていたなら、私の民を置いて、彼らから離れる
ことができようものを。彼らはみな姦通するもの、裏切り者の集まりなのだ。
- 3 「彼らは弓を張り、舌をつがえて偽りを放つ。地にはびこるが、
それは真実のゆえではない。
悪から悪へ彼らは進み、わたしを知らないからだ。——【主】のことば——
(4ページへ続く)

◆ はじめに

| 神への正しい問いかけ

1. コロナ禍で見られる誤った聖書解釈

- (1) 二歴7：14など・・・信仰を見て神は地を癒す。
- (2) 文脈無視の解釈と現状の誤認
- (3) 正しいみことばの理解に基づく、神との正しい交わりの大切さ。

◆ メッセージのアウトライン紹介とゴール

| エレミヤの涙と希望

*このメッセージは、涙の預言者の歩みについて学ぶものである。 =

I 涙の預言者エレミヤ（18～22節）

1. エレミヤの非常な悲しみ：民と共に弱り果てた。

- (1) エレミヤはイスラエルの民の将来を思う。
 - ①エレミヤの癒しがたい悲しみ：民が抱える痛みに対応している。
 - ②17節参照：罪へのさばきとして送られた「まじないの利かないコブラやまむし」

2. 予見者が見る、捕囚の地の絶望

- (1) 続けてエレミヤは預言者（予見者）の目で、バビロン捕囚の成就を見ている。
 - ①20節の「遠くの地」は、捕囚地バビロンを指す。
 - ②約束の民は、これまでも「娘」と呼ばれた。*夫であり父であるお方は主（ヤハウェ）



- (2) 捕囚の地の娘の言葉「主はシオンにおられないのか…」
 - ①この言葉は7章「主の宮があるエルサレムは無条件に安全だ」という迷信が土台。
 - ②もし、神が不注意に中座してシオンが滅びたなら、神の失敗である。
 - ③実際は、神がシオンにいるかどうかではなく、そもそも偶像礼拝が悪かった。
*「異国の中のむなしいもの」…偶像は異邦人諸国の影響である。
 - ④さばきに対しては、既に遅すぎた気づきである（14～15節）

◆ 適用：自分の問題を、神のせいにして問うことへの教訓

- ①約束の地での原則（律法による神政政治）を忘れ、王を求めた時も同様。
*サウル、ダビデ、ソロモン…と続くイスラエルの王政の起源。
- ②安全上の問題の本質は、王様の有無ではなく、民の不信仰への試練であった。
*神の臣民として求めるべきは、主（ヤハウェ）の導きと守りであった。
*攻める異邦人勢力は、イスラエルを訓練する神の器であり、またさばかれる。
*祭司の民への敵対行為であり、彼らの所有地への侵略行為である。
- ③人間の罪（責任転嫁や自己憐憫）や、無知から来る弱さである。

(3) 「刈入れ時は過ぎて…救われない」：21節は、捕囚に伴い祝福がない悲しみ

- ①収穫の夏（五旬節後の3か月）が来ているのに、収穫の喜びがない。
- ②捕囚状態からの解放がない：希望を抱く余地がないという意味。

(4) 民の傷は癒されない。

- ①ギレアデ（22節）：ヨルダン川東岸の地。族長時代から乳香の産地として有名。バルサム樹から取った油で、祭司が祭儀などでも用いる。
- ②乳香も医者もない。当然、神のことばで人々を癒す預言者や義人もいない。

II 荒野への逃亡（1～2節）

1. 泣いても泣き足りない悲しみ：「私の頭が水であったなら」

- (1) 南王国ユダの崩壊を察知：侵略により殺害される人々の悲惨さを思う。

2. 荒野への逃亡～今の人々の罪を見つめて

- (1) エレミヤ自らを、荒野への逃亡者にたとえる：同意だけが愛ではない。
*一方で背信の民の中にいて、彼らの罪の影響を受けるよりは、一人で荒野に逃れた方がいいと判断した。
*荒野（ミッドバル）は罪の世から離れて、神の声（ダバール）を聞く場所。
- (2) 民の状態：民が意図的に神に背を向け、罪を犯し続け、礼拝も本来の目的から遠く離れている状態。

III 異邦人の国のように（3～9節）

1. 神の嘆き：民は悪事を行い、悔い改めようとしない

- (1) 神を知ろうとしない（ヘブル的にはより深い人格的交わりを指す）
- (2) 契約の民が異邦人の国（異邦人を表す「ゴイ」）のようになった。

2. この国への対処：イスラエル（南王国ユダ）を罰する以外に道がない。

- (1) 目的は、自身の民を炉で熱し、精錬するするようにきよめ、再び建てるため。

◆ まとめ：エレミヤの涙と希望

- (1) 捕囚の期間を示される預言者：
*ダニエルにエレミヤの預言によって捕囚の終わりの時期を知った。
- (2) 神のさばきは徹底的であるが、滅ぼすためのさばきではない。
- (3) 神に正しく問いかけ、苦難を乗り越える。
 - ①自己憐憫と関係のある人物：預言者エリヤ、詩篇の記者アサフ、ヨナなど
 - ②対応…詩37篇、箴言15：13
 - ③責任転嫁の人物（一例）：アダム、そのような人々の歩み…箴言19：3